

「高知紀行 (11)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



製塩所のオーナーの若者は、海水がきれいなこと、沖に「姫島」がよく見えること、などでこの場所を選んだそうです。案内してもらったお礼に、その場で1枚姫島を描いて、スケッチブックから切り離して差し上げました。



島では時間がありませんでしたが、何枚か急いで絵も描きました。私はその土地に郵便局があると、スケッチブックに消印を押してもらうことにしています。郵便局の消印は「公的な印」なので、「その土地に、その日に行った」という証拠にもなるのです。通常の消印でもよいのですが、大抵の郵便局には「風景入り消印（略称：風景印）」というものが備わっていて、第一種郵便料金（はがき料金）の85円以上の切手を貼れば、郵便物以外のもの（たとえばスケッチブックや集印帳）にも押印してもらえます。切手は手持ちの

ものでも構わないのですが、必ずその郵便局で切手を買って押してもらうというのが私の流儀です。それが局員さんに対する礼儀だと思っています。



沖の島の「母島（もしま）郵便局」の風景印は、白岩鼻（岬）、沖の姫島、それに釣り人とチヌ（鯛）の意匠でした。この島の特徴を簡潔に表現しています。



郵便局は港から民家の間の狭い道を行ったところにあります。郵便車は入れないので、集配は大変でしょうね。





通常、離島の小さな郵便局の場合、ポストの収集は日に一回、土休日は収集しない・・・というのですが、この島には日に二便の連絡船が来るので、その時刻に合わせて、平日も土日も日に二回の収集です。北軽井沢よりも便利です。このポストに入れた郵便物には「中村郵便局」の消印が押されます。



島を案内してもらい、岩石の観察も終わったので、小中学校に戻りました。この小中学校は保育所も併設していますが、現在の在籍はこの女の子一人だけです。



まずは中学生の授業に臨みました。中学生も4人だけです。同行した私の同僚が授業をしてくれました。当研究所の3Dプリンターで作った、さまざまな教材を使っの、天文単元を中心とした内容です。教室でもよかったのですが、人数も少ないので、図書室をお借りしてのアットホームな雰囲気でした。中学生も皆熱心に取り組んでくれて、楽しかったです。中学生の一人に岩石や鉱物に興味を持った生徒がいたので、この島の地質のすばらしさを伝えておきました。



給食もいただきました。保育園児、小学生、中学生、それに教職員も一緒にいただきます。席順がホワイトボードに書いてあります。席は毎日変わるようです。写真は中学生の当番が、今日の給食について説明しているところです。学校の給食というよりも、一つの家族のような雰囲気の昼食でした。



この日の献立です。準備も小中学生がしてくれました。大変おいしかったです。全校園児、児童、生徒7名の離島の小さな学校で、自校調理のおいしい給食を毎日食べられる子どもたちや教職員の皆さんは、とても幸せだと思いました。